

## ぎふ農業・農村を支える人材育成

### ■農福連携 地域連携会議を開催

6月27日に、下呂福祉会館において、市内の福祉と農業の関係機関を参集し農福連携下呂地域連携会議を開催しました。

前年の地域連携会議では「農業者の農福連携への需要がわからない」という課題が出されていました。そこで、農業普及課では、市内のトマト生産者を対象にアンケート調査や農福連携についての紹介を行い、令和6年度末に1件のマッチングに至りました。また、農福連携に興味のある生産者と障がい者就労支援施設との位置関係を示した下呂地域農福連携マップを新たに作成し、農と福との地理的な偏りの解消に向けた問題提起をしました。



【地域連携会議の様子】

そのほか、農業経営課から農福連携の情勢と県内の取組み概要について、ぎふ農福連携推進センターからは、県内の農福連携マッチング事例の紹介や補助事業について情報提供がありました。

出席者からは、「参加者から積極的な発言が多くあり良い会議だった。」「現地研修会で実際の農作業を見たい。」などの感想や意見があり有意義な会議となりました。

今後も下呂地域の農福連携を推進し、農と福が歩み寄り win-win の関係となっていくために、農業普及課では現地研修会を開催し、農と福の相互理解を深めていきます。

(地域支援係)

## 安心で身近な「ぎふの食」づくり

### ■水稲・蔬菜 国際水準GAPの農場評価について研修

農業普及課では、持続可能な農業を実現するため、管内の経営体に対して、GAPの周知や取組支援を行っています。

6月26日には、「国際水準GAP評価規準に係る評価ポイント研修会」を、ぎふ清流GAP推進センターと合同で下呂市内において開催し、GAP指導に携わる関係者や、下呂市内の農業者19名が参加しました。

研修会では、稲作経営を行う(資)源丸屋ファームの曾我康太氏から、労働環境を改善し従業員の満足度を向上させた例など、同社のGAPの取組み事例について報告がありました。また、ぎふ清流GAP推進センター職員から、国際水準GAPにおける農場評価のポイントの注意点などを具体的な事例に沿って説明頂きました。



【研修会の様子】

参加者からは「GAPの取り組みの必要性を再認識した」などの意見が聞かれました。

農業普及課では、持続性の高い農業生産を目指す農業者に対し、今後もGAPの理解促進や取組支援の活動を進めます。

(地域支援係)

## 地域資源を活かした農村づくり

### ■えごま 学生を対象とした体験学習会を開催

農業普及課では地域の伝統食材である「えごま」の歴史や魅力を再認識してもらい、生産や販売・加工の促進につなげることを目的にPR活動の取組を支援しています。

6月28日に、下呂市小坂町のふれあいの森において、愛知淑徳大学の学生（15名）と益田清風高校の学生（4名）を対象とした体験学習会を開催しました。

講師は、飛騨小坂あぶらえ生産組合の生産者と飛騨小坂観光協会の職員、農業普及課が務め、昔ながらの食べ方や栽培方法などの説明と五平餅づくり体験を行いました。

参加した学生からは、「えごまの歴史や効能を初めて知った。」「五平餅づくりは初めての体験だった。」などの意見があり、有意義な体験会となりました。

農業普及課では今後も生産者や関係機関と連携し、下呂市のえごまの栽培指導や販売支援を行っていきます。  
(地域支援係)



【五平餅づくり体験の様子】